

◎ベイスンOD錠、○ボグリボースOD錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】ボグリボース Voglibose 【分類】糖尿病治療薬 [α-GI]

【単位】◎0.2mg・◎0.3mg/錠

【常用量】■糖尿病の食後過血糖の改善：0.6～0.9mg/日■耐糖能異常における2型糖尿病の発症抑制：0.6mg/日 [0.2mg錠のみ適応]

【用法】分3 毎食直前

【透析患者への投与方法】吸収されにくいいため減量の必要なし (5)

【その他の報告】透析患者において胃癌術後ダンピング症候群に対して有用であった症例 (山本直, 橋本修 透析会誌 48: 455-9, 2015)

【保存期CKD患者への投与方法】吸収されにくいいため減量の必要なし (5)

【特徴】小腸粘膜の吸収上皮細胞の刷子縁膜に存在する二糖類分解酵素 (α-グルコシダーゼ) を阻害し、糖質の消化・吸収を遅延させ食後血糖の上昇を抑制する。食後過血糖に伴う過剰なインスリン分泌が節約され糖代謝異常も軽減する。

【主な副作用・毒性】消化器症状 (下痢, 放屁, 腹部膨満, 便秘, 腹痛など), 低血糖 (単独では発現しにくい), 肝障害, 腸閉塞など

【モニターすべき項目】肝機能検査 (1)

【吸収】ほとんど吸収されない (1)

【排泄】糞便中排泄 (1) 尿中排泄率0.63～1.70% [po, 48hr まで] (1)

【t1/2】ほとんど吸収されないため該当しない (1)

【蛋白結合率】7%以下 (1)

【MW】267.28

【透析性】吸収されないため該当しない (5)

【TDMのポイント】ほとんど吸収されないためTDMの対象にはならない (5) 【O/W係数】水相に分配 (1) 【pKa】7.06 (1)

【主な臨床報告】耐糖能障害から2型DMへの進展予防効果を示した試験 (Kawamori R, et al: Lancet 2009 PMID: 19395079)

【備考】腹部膨満感、腹鳴、放屁、軟便などの副作用の頻度が高いが、一般に時間の経過と共に消失することが多い。他の糖尿病薬と併用すると低血糖症状を起こすことがある。その時はショ糖でなくブドウ糖を与える。耐糖能異常における2型糖尿病の発症抑制にも選択されるが、耐糖能異常 (FBS126mg/dL未満かつ75gOGTT2時間値が140～199mg/dL) と判断され、食事療法・運動療法を3～6ヵ月間行っても改善されず、かつ高血圧症、脂質異常症 (高TG血症, 低HDL-C症等)、肥満 (BMI 25kg/m²以上)、2親等以内の糖尿病家族歴のいずれかを有する場合に限定して適用して適用される。

【更新日】20240530

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。